BOLETIM INFORMATIVO INTERNO(GRATUITO) A・C・A IWATE KENJINKAI DO BRASIL

岩手県人会ニュース

183

2013年10月発行

Rua Thomaz Gonzaga 95 - M Liberdade São Paulo SP Brasil CEP 01506-020
TEL/FAX (11) 3207-2383 E-mail : iwate@iwate.org.br www. iwate.org.br

ブラジル岩手県人会創立55周年式典

親睦が原点 Fundação de 55 anos de Iwate Kenjinkai

「親睦が原点」として発足したブラジル岩手県人会は55周年の節目を、8月18日（日）電工組合ホールで盛大に開催した。「故郷との交流」に県も応え、達増拓也県知事、佐々木博県議会議長一行、慶祝団一行、郷土芸能使節団など30人、パラグアイから2名、会員など400名が式典を祝った。

千田会長は、多くの来賓や会員の参加を得て開催できる事を感謝し、母県を襲った「東日本大震災」のお見舞いと、被災地の早期復興を願った。県人会は『ふるさとを思う心』を大切に、老若会員同士の「親睦が原点」とした活動、「母県との交流」を今後も継続。

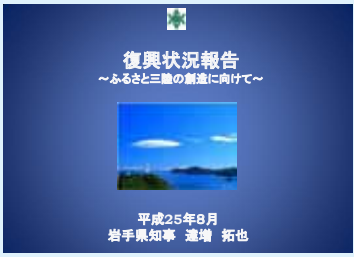
また県人会活動の一部である「岩手の食文化（わんこそば、三陸わかめなど）」の広報、「世界の岩手県人会との交流」などの活動に力を注いでいると挨拶。

達増拓也県知事は「岩手県出身者の心のよりどころ」として結成された県人会が、輝かしい発展を遂げ55周年を迎えたことは真に喜ばしい。今後もブラジル社会に寄与され、日本との友好親善のためご尽力を賜りたいと挨拶。 佐々木博県議会議長、福嶌教輝総領事、千葉正幸金ケ崎副町長、同議会の伊藤雅章議長、園田昭憲県連会長、日系議員などの挨拶を受けた。

県人会・岩手県と記念品等の交換があり、日系議員から達増県知事，佐々木議会議長、吉田恭子賛助会会長（訪伯6回）、松本トミ賛助会副会長（訪伯7回）に「日伯交流」への感謝状が贈呈され。一方県人会から、千葉政幸金ケ崎副町長、伊藤雅章金ケ崎町議会議長、藤沢清美岩手民謡協会長に「親善交流」のプラッカが贈られた。

昨年度の県費留学生「東ヴァネッサ」さんが、お礼と使命の挨拶があり記念品が県知事に贈られ、知事より記念品の返礼がなされた。また、長年諸活動に参加された役員、連絡員、婦人部員など20名に対し知事から功労者表彰があった。

「復興報告」：知事は「大震災」の支援に感謝し、被災地の状況や今後8年かけて完全復興計画など映像を交え力強く説明した。



最後に、大太刀ミリアン合唱団による復興ソング「花は咲く」などコーラス3曲が披露された。この合唱団には県人会子弟の留研生OB数人が参加している。

いわて芸能まつり

「郷土芸能使節団」：（団長・藤沢清美岩手県民謡協会長）による５回目となる「ブラジル公演」に12名が参加。

巧みな踊りと中川愛子さんの軽妙なお国なまりの司会進行で、岩手の代表的な「南部牛追い唄」「南部よしゃれ」、日本各地の民謡民舞に観客は大喝采。

会長は小野寺幸山さんとアメリカから参加した三上ゆかりさんの「津軽三味線」に魅了された。

当地の「民謡愛好会」団体の方々も、プロの洗練された歌声や踊りに「さすが岩手だ」と惜しみない拍手を贈っていた。時間の都合上ミニプログラムであったのが誠に残念であった。

昨年NHK日本民謡コンクールで「南部牛追い唄」を歌い日本一に輝いた「福田こうへいさん」は、NHK 歌謡コンサートなどで紹介されているヒット曲「南部蝉しぐれ」を熱唱。この曲は当地でも既にフアンが大勢いてカラオケで歌われている。

司会の中川さんによると既に売り上げは 10 万枚以上を達成とのこと。年末の「紅白歌合戦」への出場もブラジルの皆さんの支援があれば可能と応援を要請していた。熱唱には割れんばかりの拍手や黄色い声援が飛び交った。アンコールは「風やまず」を披露。公演後「こうへい」さんはフアンにサインや写真をせがまれていた。

「祝賀会」

型苦しい式典の後、祝賀会がケーキカット、南部美人の酒で鏡割りが行われ、菊地名誉会長の乾杯ではじまり、豪華な日本料理に舌鼓を打ちながら会場は、和やかな打ち解けたムードであった。

県人会が用意したサプライズ「サンバショー」に、老いも若きもまた慶祝団皆さんも当日の寒さを跳ね飛ばすように心ゆくまで興じていた。

車椅子をありがとう

歌う水道屋さん　清＆絢子夫妻

8月18日、当会創立55周年式典会場で、「歌う水道屋さん」として知られる「秋本清（埼玉県）・絢子（岩手県二戸市）」夫妻の代理で県人会から車椅子3台が、サンパウロ日伯援護協会へ贈られた。

秋本清 & 絢子夫妻

発端は（株）IBC 岩手開発センターの平松誠司氏より、“昨年11月秋本夫妻の活動をサポートをしている。来年にでも機会をつくりブラジルの岩手県人会のイベントなどに「歌と車椅子」をもって、訪問する計画を立てたいと考えている”とメールを受信。

其の後双方でやり取りがあり、秋本夫妻訪伯の予定が立たず、結局は予算内で当会が椅子を購入し、式典で千田会長から夫妻のメッセージが代読され「援協（菊地義治会長、一関出身）」へ「車椅子3台」が寄贈された。後日購入余剰金も援協に寄付された。

秋本夫妻は、歌手活動の売り上げで購入した「車椅子」を福祉施設などに贈る活動をしている。すでに寄贈数は300台を突破、岩手県内に225台、日本国内に392台（7月現在）。400台の寄贈を目指している。今回ブラジルへの車椅子寄贈で395台となった。

夫妻は1965年に結婚、力をあわせて現在の会社の経営を軌道に乗せ、唄の好きな夫妻は会社設立20周年を記念し「人生ふたりづれ」を自主制作。その後も「団魂夫婦」「昭和生まれ」、2000年以降「どんと来い！岩手」や「どんと来い！岩手パートⅡ」を発売。

岩手県知事から「銀河系岩手大使」に任命され、現在も「希望郷いわて文化大使」として活動。因みに「どんと来い岩手」は県観光協会の後援ソングとなっている。

10 月 5 日夜、千田会長宅へ秋本絢子夫人から「おばんです」とお礼の国際電話があった。お会い出来るのを楽しみにと・・・

写真は、秋本夫妻から援協に寄贈された車椅子 3 台

前夜祭　歓迎交流会賑やか

8 月 17 日（土）県人会 55 周年式典出席のため、母県から次々と慶祝団一行5組がサンパウロ入りした。一行の松本トミさんは 4 月に亡くなった甥の藤村勝己さんの写真を伴って“ 勝己サンパウロへ来たよ”と挨拶。 勝己さんは亡くなる前〝叔母さんと一緒に行きたかった〟と云っていたのでせめて遺影だけでも連れて来たかったと言う。私たちは〝 勝巳さんようこそ〟とつい涙ぐんで迎えた。一行は CEASA や市内視察に向かった。

慰霊碑で先駆者を讃える達増県知事一行

知事一行は田口理事が手配した軍警オートバイの先導でホテルへ。イビラプエラ公園にある「開拓先没者慰霊碑」を県連幹部が見守る中参拝。先人の偉業を称えた。

午後 6 時過ぎから県人会ホールで、慶祝団一行の前夜祭「歓迎交流会」を開催。千田会長の歓迎の言葉、達増知事、佐々木議長、千葉金ケ崎副町長、伊藤議会議長、藤沢岩手民謡協会長の挨拶があり、菊地名誉会長の音頭で乾杯。食事はブラジル料理で「歓迎の宴」が行われた。

知事と一緒に記念写真に納まる団員

頃半ば県人会太鼓「雷神」が日頃の練習を披露。慶祝の一人はブラジルで県人会が主催する太鼓演奏を聴いて、日本の文化がブラジルで活きていると賞賛していた。

続いて芸能団皆さんがプロの軽快で巧妙な郷土や日本各地の民謡など「歌と民舞」ショーに会員から大きな拍手が鳴り響いた。

最後に歌謡界でメキメキ人気上昇中の歌手「福田こうへい」さんのヒット曲「南部蝉しぐれ」が披露され、南部盛岡雫石と唄いだすと「こうへいさん」「ピューピュー」と応援が飛んだ。Mais hum mais hum のアンコールに応え「風やまず」も披露された。彼の歌は NHK 衛星放送の番組「歌謡コンサート」で度々紹介され、コロニア視聴者も多く既にカラオケなどで愛唱されている。「福田さん」は父親が民謡歌手で 20 年前使節団の一員としてブラジル各地の公演に参加している。

「こうへいさん」も、父親の行ったブラジルへ是非行ってみたいと、忙しい日程をさいての実現で大変喜んでいた。

「郷土芸能使節団スザノ公演」

「スザノ岩手民謡まつり」

8 月 17 日 郷土芸能団一行は、佐々木相談役の案内でスザノ市での公演のため現地へ。会場は「第 4 回文化まつり」開催中の連合日本人会のホール。観衆約 1000 名は初めてプロの洗練された生の「唄と芸」に，惜しみない拍手を送ったと佐々木さんの報告。

県知事一行は 8 月 19 日（月）午前、総領事館を表敬訪問し福嶌教輝総領事から、ブラジル事情の説明を種々受け懇談。知事は外務省出身で、総領事は同僚に会えたことを喜んでいた様子だった。

また、一行はサンパウロ州議会を訪問。生憎日系議員は所要のため不在で、高橋カルロスさんが日系と深い関係がある Dr Adilson Rossi 議員が応対。議会の説明や質問など親しく懇談、記念品の交換もあり議場も見学。議会前で訪問写真に納まり、午後の便で次の訪問国アスンションへと向かった。

～ 国際交流の先駆者たち ～

岩手県国際交流協会で 8 月 9 日から 1 ヶ月間、ブラジル岩手県人会 55 周年、パラグアイ国イグアス岩手県人会 50 周年記念・特別企画展示会が開かれた。

『文化も言語も違う「知らない世界」で、先人達がなし遂げたことは何でしょうか？私たちがここから学ぶこととは何なのでしょうか？ 』

協会では今までの様々な資料を展示し、海外県人たちの活動を広く知らせたいとの思いで企画した。

写真左は交流センター内に展示された両国の資料

苦節の50周年記念式典

パラグアイ国イグアス岩手県人会

8月22日（木）午前10時から、パ国イグアス岩手県人会の「創立50周年記念式典」が、移住地の日本人会館で開催され、県知事一行や慶祝団、芸能使節団、猪俣アルゼンチン会長、長沢アスンション会長夫妻、西舘ピラポ会長夫妻、ブラジル県人会から千田会長夫妻、多田副会長が参列。

移住地では「入植52周年」記念日であり、日本人墓地で開拓先亡者供養慰霊祭が行われた。司祭の読経に始まり、福井一朗（岩手）日本人会長や達増県知事が追悼の辞を述べ合掌し菊の花を霊に捧げた。参列者一同も先駆者の霊に追悼と祈りを込め参拝した。

さて、記念式典は菅原祐一郎総務の司会で始まり、小原和子会長は原始林開拓の中で県人会も発足。会員の親睦交流を基に記念式典を開催できる事に感謝を述べた。

達増卓也県知事、佐々木博県議会議長、谷藤裕明盛岡市長、福井一朗日本人会会長、工藤忠利農協組合長（岩手）、ロベルト市長らの祝辞があった。

県から記念品贈呈、功労者表彰があり、80歳以上の会員へ県人会から賞状と記念品が贈られた。最後に永野静子留研生代表が感謝の辞を述べ式典が終了。

記念撮影後、「岩手の森」で慶祝団一行による記念植樹を行った。祝賀会は「南部美人」提供の酒で「鏡割り」がありパーティが始まった。食事は婦人部の手造り料理に加え、シュラスコ、果物が振舞われ、食事中，太鼓，鬼剣舞，民舞ダンサパラグアイも披露され慶祝団皆さんのハードスケジュールが癒された。

午後から県知事による「被災地復興報告」があり「郷土芸能使節団」の公演があった。ピラポ県人会からバスで大勢が参加した。

民謡ショーはお国訛の軽快な中川愛子オバちゃんの進行で始まった。ふるさとや日本各地の民謡民舞と岩手の歌手「福田こうへい」さんの「南部蝉しぐれ」に観集は酔いしれていた。（福井日会会長夫妻もこうへいさんと記念写真）

「移住地情報」イグアス移住地は戦後 JICA が9万ｈａの原生林の土地を購入。1961年8月フラム、チャベス両移住地から14家族が転住し原始林の開拓がはじまった。県人には和賀町出身の武田円次郎一家もいた。

その後次々と岩手県人も入植し、県人同士の集いも持たれたようである。従って移住者の子弟も増え1966年以降移住地運営協議会、自治会も発足し治安、道路、文化、営農促進など委員会が設けられ発展し日本人会など設立された。日本語学校も設立され子弟たちは現地教育の傍ら、日本語教育も受けるようになる。パラグアイの日系子弟は周囲環境がら、一世と同等の日本語ができるのが羨ましい。

今の時期裏作の小麦畑が延々と広がる移住地

同地は新しい戦後移住地で皆さんは「ふるさとへの念」が強く、昨年当会式典招待訪岩の折、関係者へイグアス県人会も50周年を迎えるので「郷土芸能使節」をパラグアイへも派遣して頂きたいと要請。願いが叶った事に感謝している。

左から多田副会長、県の山田麻紀さん、猪俣康夫アゼンチン会長、千田会長

芸能団の皆さんもパラグアイ各地で公演出来たことを大変喜んでいた。

左，谷藤盛裕明岡市長夫妻と西舘世公ピラポ会長夫妻

左，長沢聖太郎アスンション会長、優子夫妻と藤沢清美岩手民謡協会長、優子夫人は藤沢会長と小中時代の同級生

「各県人会と交流」

式典には猪俣康夫アルゼンチン会長、長沢聖太郎アスンション会長夫妻、西舘世公ピラポ会長夫妻等とピラポ県人会から貸切バスで会員の参加もあり、各県人会員同士の旧交を温める事が出来た。

ピラポ、イグアス移住地は**「鬼剣舞」**を北上市から何回か指導を受け、現在も若い人たちに伝承され受け継がれている。今回北上市の鬼剣舞指導者の八重樫正義さんも慶祝団に参加。舞いの成長ぶりに目を細めて鑑賞していた。

16º Festival do Japão 18万人の来場者

歌手「マルシアさん（中央）」も日本祭りに参加

毎年婦人部・青年部のボランティアが常時20人以上が手伝って大助かりの県人会 BOX

今年も県人会連合会主催で、7月19日から21日までイミグランテ展示場で**「第16回日本まつり」**が**「地球に優しい技術と進歩」**をテーマに開催された。主会場である食ブースには、各県人会、福祉団体など53店舗が出店した。屋内会場では、スポンサー等の日本企業、バザー店、団体ブース、サービス業、食品等が並び、文化会場、子供ブースなど。特設舞台ではミスコンテストやショーなどあり、好天に恵まれ期間中18万人が訪れた。

19日（金）正午開場、各県人会の「食ブース」約半数が出店した。岩手県人会は Box38 番で、例年のように**「三陸わかめうどん」**（わかめは毎年岩手県山田町の松本トミさん提供）**「コロッケ弁当」「餃子」**。本数は少なかったが岩手の地酒**「南部美人」**を販売した。

温かいうどんは好天で気温が高くボチボチの売行き。コロッケ弁当はご飯、サラダ、マンジョッカ芋のコロッケ（主に北伯地方の主食で甘みがあり、様々な料理の仕方がある）が付く。当会ブースには若い人々を主体にしたボランティア20名以上が所狭しと調理に励んでいた。

土日は各県人会、福祉団体も出揃い入場者も増え各々が好みの食べ物を求め、各ブース前には行列が出来るほどの盛況であった。

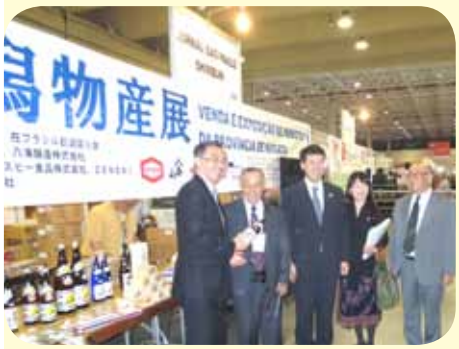
金曜の夕方には、NHK 取材班とブラジル出身の歌手**「マルシア」**が来場。20日のステージで凱旋公演を行った。彼女のヒット曲**「ふりむけば横浜」**など6曲を歌い、当地コーラスと一緒に、NHK 東日本大震災復興ソング**「花は咲く」**に、観衆は震災を連想し目を抑えながら一緒に口ずさんでいた。

屋内に設けられた会場「日本パビリョン」では、日本観光庁、国際交流基金のブースなどと折から県連が招聘した「大震災被災者交流事業」の、岩手、宮城、福島の3県による「東日本大震災写真」や県のパンフレットが展示され「ビデオ」も上映。被災者は当時の状況などを詳細に説明していた。（写真は説明する陸前高田市の大和田加代子さん）

ショーを見ようと観覧席は人でいっぱい

祭りのテーマ「地球に優しい技術と進歩」に因み「親善ロボットコンテスト」も開催された。8か国から理工科系の学生40人が参加、3台のロボットを操作し、「球や筒」を所定の箱に入れる競技だったとの事。

「新潟物産展」では、和菓子、包丁、砥石、カレー、日本酒などが展示され泉田新潟県知事も視察。今後県として何らかの形での参加を検討したいと報道されていた。



日本祭りの会場ホールに於いて「戦後移住60周年記念式典」が19日開かれた。趣旨は「戦後ブラジルの発展に貢献した日系団体、企業の表彰」で、サンパウロ州議会から各分野の36団体が表彰を受けた。

やぐら広場で 20 日 21 日と昨年から始まった**「BON ODORI」**に老若男女が加わり、日本文化を楽しんでいた。

「祭りの課題」

日本祭りは各県人会にとって年に一度の稼ぎ頭事業。この祭りで一年の予算を賄えると云う県人会もある。来年は会場費が従来の3倍とかで「日本祭り」の開催が危ぶまれている。開催できなければ、各県人会の企画力、各種事業によって「活性化」を図りながら会の運営管理などに努めなければならないだろう。

被災地の現状を伝えたい

東日本被災地から招聘交流事業

大和田さん（右端）を迎えて有志で歓迎懇談

県連主催、日系団体、被災地3県共催の「東北被災者招聘交流事業」で岩手（大和田加代子さん・陸前高田市）、宮城（松本康裕さん・名取市）福島（天野和彦さん・会津若松市）が7月13日夕着伯。県人会では14日早速大和田さんの歓迎会を有志で行い交流を交えた。翌日から慰霊碑参拝、サントス、市内など視察し、パラグアイはイグアス日本人会で被災者の講演と交流が行われた。

19日から「日本祭り」に参加。戦後移民60周年式典、各県ブースの手伝い、屋内に特設された「被災地」ブースで被災地写真展、ビデオで説明に対応していた。

その他コロニア各団体を視察し、23日「大震災から2年余・伝えておきたいこと」の講演会が宮城県人会で開催された。

初めに大和田さんが涙ながらにスクリーンを通し、遺体確認作業や被災地の現状を語り、赤十字の義捐金配分状況などを報告。今後も被災者を皆さんの心に刻んで頂きたいと述べた。

大和田さんは「ちーむ麻の葉」の代表を務め、仮設住宅などに住む楽しみの少ない老人達に、環境に優しいアクリル繊維で作った「タワシ」作りなどを指導。製品売上金で被災者に還元する活動を行っている。

松本さんは津波に間一髪で難を逃れた。被災者同士前を向いて歩きたいと語った。

天野さんは、自宅に居て津波が押寄せる様子を目撃。これは大変だと年寄りを伴い2階に逃れた。宅地が他よりも一寸高く家屋は流されなかったが1階部分が浸水、階上に逃れ助かったと自身のビデオを放映しながら伝えた。また原発放射能汚染など生活の目途、復旧の形が見えて来ないと語った。

会場は故郷被災地の実情を聞こうという人で満席で、体験や現状を聞き、視聴者の胸を打ちハンカチを出し涙ぐむ人々が多く見られた。今回の招聘事業は、招聘者･在住邦人の心に刻まれた事だろう。

25日開かれた報告会で、3名は南米訪問で感じた事をそれぞれ述べ、在外邦人の心の温かさに感激したようで、松本さんが泣き、天野さんは言葉も出なかった。今日は泣かないと云っていた大和田さんまで感極まって涙がボロボロ。こうしてコロニアの皆さんの心に刻まれた「被災者報告・交流事業」は成果を挙げ一行は帰国の途に。

右から招聘事業の委員長を務めた本橋鳥取県人会長、大和田、天野、松本さん

追、大和田さんの報告。被災者子弟へ県人会から託されたお菓子は、幾つかの学童保育園（親が働いている子供達を預かる）に早速届けられたそうです。（写真）

山上さん全国大会すべて優勝

8月の当会式典公演に民謡使節団の最年少で参加した、唄踊りと芸達者な「山上衛」さんは、今年出場した全国の6大会全て優勝した。曲は秋田港の唄、秋田長持唄、秋田追分、南部よしゃれ、南部木挽唄、南部牛追唄と秋田県3曲、岩手県3曲と大変な快挙でした。その祝賀会が10月28日に予定されています。（藤沢団長のメールより）

逝去　藤堂勝次さん（98歳、花泉町出身）は、7月28日急逝されました。6月には移民記念日に「白寿」表彰を受けたばかりで、100歳までと思っていたが・・・

藤堂さんは県人会の役員を長く務め発展に寄与された。またカラオケが何より好きで、最近まで歌っていた。

及川バラ園・育苗場を視察

9月7日（ブラジル独立記念日）、花栽培やイチゴの産地アバイア市でバラ園を営んでいる大東町出身の及川君雄さんの農場を訪れた。8月 18 日の県人会55周年式典に及川さんが沢山の「バラ束」を持参されたが。この綺麗なバラを見た青年理事が“会長及川さんのバラ園を是非見たいと”云ったのが発端。早速及川さんに連絡し快諾された。

及川さんは1959年に移住、近郊のイタケーラ、インダイアツーバと転住。イチゴ栽培を目指してアチバイアへ入植。試行錯誤の結果バラ栽培に転換。現在約80種類のバラが全天候型栽培で管理され毎日出荷されている。

鑑賞育苗栽培は品種選択され（種子は輸入品）、温度、追肥、病原菌対策など管理され「ハウス全体」が、まるで近代化された工場。

バラの選別について及川さんが説明

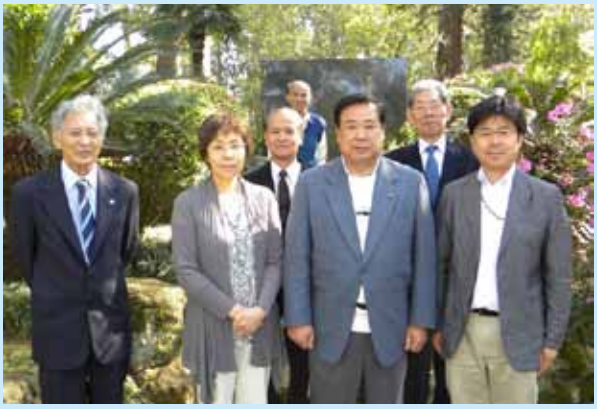
ここのバラ園の強みは及川さん家族全員が栽培に携わり、管理経営が行き届いている点だと感じた。

視察後及川さんに案内され、折アチバイア市で開催されていた「イチゴ祭り」を見学。

また、奇麗なバラ束を沢山頂き帰路についた。

工場化された育苗ハウス

谷藤盛岡市長夫妻来伯



慰霊碑参拝の谷藤盛岡市長一行

8月20日（月）日程の関係で県人会55周年式典に出席出来なかった谷藤裕明盛岡市長夫妻、曽根田雅彦秘書室長の3名がイぐアス岩手県人会式典出席のため来伯。谷藤市長夫妻は県議会議長（当時）以来12年ぶりのサンパウロ訪問。

一行は「開拓先没者慰霊碑」を参拝された。県連から木原担当理事、原島副会長、伊東カメラマンが出迎えた。谷藤市長は2回目の訪問に感慨深い思いで参拝されていた。その後、東洋街を訪れ県人会にも来館され思い出のホールなど視察され懇談された。

一行は翌21日イぐアスの式典の為、県人会代表3名と同便でパラグアイへ飛ぶ予定のため、急遽県人会では一行の歓迎会を市内のシュラスカリアで開催。積る話で楽しい懇談会であった。

写真右から曽根田秘書、谷藤市長、令夫人

朝倉大君　ブラジル音楽資料発掘に来泊

9月20日、朝倉大君が県人会を訪問。大君は上智大学院生でポルトガル語課を専攻。修士論文作成の為、ブラジル音楽「セルタネージョ（民謡）」の資料集めが目的。大君は当会賛助会員「佐々木栄洋さん（遠野市在）」の甥にあたり、佐々木さんから連絡が入っていた。大君は佐々木夫人の実家がある、パラナ州マリンガ市で資料集めやショーなどを実際に見聞する。

小笠原カミラさん岩手大学に留学

9 月 7 日 USP サンパウロ総合大学日本語科 2 年在学中の**「小笠原ロベロカミラ」**さんが、文部省の国費留学生として、10 月から 1 年間**「岩手大学」**で勉強すると報告に来館。

カミラさんの曾祖父金之助さんや祖父、祖父一家は金光さんで 1933 年二戸郡斗米村から移住している。

Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil
ブラジル岩手県人会
Rua Thomaz Gonzaga 95-M Liberdade São Paulo Brasil CEP 01506-020
TEL/FAX (11) 3207-2383 www.iwate.org.br e-mail iwate@iwate.org.br
ブラジル岩手県人会ニュース 183号 2013年10月発行

IMPRESSO
PODE SER ABERTO PELA ECT

「お 礼」 さる8月17日の慶祝団一行歓迎交流会及び、18日の県人会創立55周年祝典開催にあたり、母県岩手から県知事一行、郷土芸能使節団、慶祝団を迎え、また会員ご家族、関係団体皆さんのご臨席を頂き、盛大に無事挙行で出来ました事に会員を代表して心から厚く御礼申し上げます。

開催にあたり会員及び母県庁及び関係皆様の、多大なご支援がありましたこと感謝の念にたえません。このように母県皆様との「人的交流」こそ「国際交流」と言えます。

今後も「移住先駆者」の「意志」を継いで母県との「絆」を大切に、県人会活動を継続して参りたいと思います。

皆さん本当にありがとうございました。　　会長　千田曠暁

「お詫び」 今号は紙面の都合で、会費納入者、祝典特別寄付、県人会の動き、図書利用、訪問者数など掲載出来なかったことをお詫び申し上げます。　編集子

岩手県人会今後の予定 (Prgramação de Atividades)

12月14日(土)モチつき会（白モチの予約を受付ます）
Moti-tuki dia 14 de Dezembro, sabado
12月15日(日)年度忘年交流誕生会
Bônen-kai dia 15 de Dezembro, domingo das 12 hs
2014年1月19日(日)午前9時半より
第55期定期総会 - 新年会
Assembléia Geral Ordinária e Shinnen-kai,
dia19 de Janeiro de 2014 das 9.30 h

写真　慶祝団皆さんも、強烈なサンバのリズムに興じる